



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030
伊原 忠 ☎047-488-7207
飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党
八千代市議団
ホームページ
<https://jcp-yachiyo.jp>



日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp

第620号
2024年1月15日
発行
日本共産党
八千代市議会議員団
八千代市大和田新田
312-5

熊本地震(2016年)以来の震度7の大地震発生

元日の午後4時過ぎ、石川県能登半島を震度7の地震が襲いました。日が経つにつれ被害状況が明らかとされていますが、いまだ被害の全容が明らかとされていません。石川県では、亡くなられた方が213人(1/11現在)、安否不明者37人など甚大な被害となっています。

まず、亡くなられた方々に対して心からの哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた方々に心からのお見舞いを申し上げます。

日本共産党では、駅頭・街頭などで能登半島地震救援募金に取り組んでいます。みなさんのご協力よろしくお願ひします。



八千代市の災害に備えた準備は万全か？

災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ、災害に備えた準備が必要です。12月議会では、災害時の準備として備蓄品について質問を行いました。

在宅避難か避難所に行くのかによって備蓄品の内容は変わってきます。また若者の世帯か高齢世帯かでも違ってきます。こうした避難の場所や家族構成ごとに準備する事を想定して、周知を図る必要もあると質問し、これらをまとめたパンフレットの全戸配布を提案いたしました。

市は「現在、災害時に自宅が倒壊や浸水するなど居住不能となった方以外につきましては、在宅避難を推奨していることから、それを前提とした備蓄品等の周知を広報やちよや市ホームページ、暮らしのナビブック等で行っている」とし、さらに「内容の充実」「今後ハザードマップを更新し周知する必要があることから、市ホームページ等につながるQRコードの掲載など防災情報の充実を図るとともに、改めて全戸配布につきましても検討してまいります」との答弁があり、周知の拡大やパンフレットの改善の方向性が見えてきました。



●八千代市
Web版防災
ハザードマップ

災害時協力井戸(市内88カ所)の周知を

さらに、災害時協力井戸は水質検査を3年に1度、市において実施し確認しています。しかし「どこにあるのかわからない」「飲める水なのか」との市民の声があり「水の循環のために水まきはしているけど、飲んだことない」「検査はしているけど普段使っていない」と協力者の方の声があったことから、自治会等の活動で場所の周知と活用方法について自治会などの協力はできないか提案しました。

市は「現在88ヶ所の具体的な場所等につきましては、所有者名、住所を市ホームページで公開し周知を図っている」ことを前提にしていますが、「災害時における飲料水等の確保につきましては、重要であると認識していることから、今後自治会や自主防災組織で行う活動において、地域にある災害時協力井戸の場所の確認等を行っていただけるよう自主防災組織連絡協議会の総会やリーダー研修会などを活用し、要請してまいります」と前向きな答弁がありました。

今後も日本共産党は災害に強いまちづくりを目指して頑張っております。



●写真：登録された井戸
※八千代市ホームページより



●八千代市
災害時協力井戸